

2012 年度（平成 24 年度） カラ事業報告書



食料となるブンブンの花

特定非営利活動法人 カラ=西アフリカ農村自立協力会

東京事務局 〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町 1-1-6-102

電話 0422-29-7640 FAX 0422-29-7688

バマコ事務局 BP-E367 BAMA KO

電話 00223-2020-90-96 FAX 00223-2020-35-89

平成 24 年度事業について

村上 一枝

平成 24 年度・2012 年度の事業は、計画通りに進めることが出来ました。
ご支援くださった多くの方々にお礼申し上げます。

しかし、すでにご存知のように現地マリ共和国の北部サハラ地域で独立を主張するトアレグ族の戦闘に関連して発生したクーデターのために、日本人の渡航が許可されなく、現地マリへは 2012 年 3 月 10 日の帰国以来、2012 年 4 月開催予定のスウバ村診療所開設式典に合わせて計画していた渡航の予定が不可能となったまま、現在(2013 年 6 月)までその状況が続いています。



しかし、日本事務局からは、マリへ事業費も平常通りに送金可能ですし、マリで停電がない限りメールでの連絡は可能です。

東京事務局サイドの者にとっては、日本人の不在期間の現地の活動がどのように続いているか、多少の心配はありますが、現地最前線で活動をしているスタッフのスマイラやケイタ、アワそしてセイドウたちは村のアシスタントスタッフや助産師とともに足並みを揃えて、事業の責任者であり村上の代行でもあるジャワラの指揮のもと、計画通りに特別な問題もなく事業を進めております。彼らには非常に頼もしく

感じております。これは 20 年間培ってきた経験が彼らに自信を持たせ、逆に日本人の不在時にこそ力を発揮するチャンスと、頑張っているようです。村の今頃は、バオバブの実が写真のように風に揺れていることと、現地へ思いを馳せております。

カラムも現在まで数々の事業を継続してきましたが、特に 2012 年度の事業状態を振り返ってみますと、女性が運営管理する野菜園活動や、女性適正技術の活動では小規模女性貸し付け事業も含めて、そろそろ手放す時期が来たのではないかと考えています。

そして、やはり目立って来たのは村の女性たちの意識の変革です。村から女性が選ばれて助産師になった例を現実にして、「ヤレバできるのだ!! 文字を覚えると職業につける」ということで、成人女性が学習をするようになりました。そして彼女たちの子供、特に女子の就学率が高くなったことです。

毎年、現地では雨季の降雨量によってトウジンヒエや米、トウモロコシの収穫高も定ま

らず、不安にかられています。今頃の村での挨拶は、「雨が降らないねー、大変だねー」となります。しかし、過去と違って家族の生活を支える女性たちは収入を得る道を知りました。彼女たちの毎日は家事や育児に追われるだけではなく、農作業・適正技術・識字教室、そして保健事業への参加と積極的に活動しとても多忙です。色々な活動を通して知ったことを活かし生活を支えることが出来るようになったことは、支援する私たちのとても大きな喜びです。

マリ共和国では、7月28日から決選投票の8月11日まで、大統領選挙が行なわれる予定です。現在、約15人が大統領に立候補しているということです。

トラオレ暫定大統領の呼びかけである「透明な選挙の実現」が成功し、再び穏やかなマリになることを強く望んでいます。

平成24年度事業の報告

■ 教育の普及

現在進行中のJICA資金による識字教師育成研修会を含め、村人の自由参加による識字学習が非常に活発に進んでいます。これの対象となっている3カ所のコミュニティ（クーラ、ドゥンバ、トゥグニ）内98ヶ村で合計2500人の村人が生徒として登録しています。村の識字教室の最多生徒数は50人、最少生徒数の教室は9人です。



識字学習は月の内、最低学習日数を14日間と識字学習振興省で決められています。今年はまだ本格的な雨季には入っていませんが、農閑期には

外国や都会に出稼ぎに行く成人が多くて識字学習への出席者数も減少します。2013年3月の出席率は平均62.5%でした。識字学習へ全員出席の村(教室)や、ゼロ(0)の村(教室)もあり、このような村は殆どの青年が出稼ぎに行ったことを意味しています。農作物の収穫が少なく経済的な理由が出稼ぎの第一の原因ですが、村出身の誰か1人外国で成功している人がいると、右に倣え！！で出かけていってしまうのです。この

ような男性たちとはちがって、女性は出稼ぎ者が殆どいなくなりました。識字教室の全員が女性だけの村もあります。この後、6月か7月から9月一杯は農繁期になりますから、識字教室は基本的に閉鎖となります。この識字学習の普及事業は、地域によっては20年が経過しました。成人の生徒数が増えたことと、小学校就学児童の増加が比例しているようですが、小学校の無い村がまだまだ多いので意識は高まっても、建物がないので足踏み状況です。前ページの写真は、小学校を開設してもまだ建物がない為、夜間に使われる識字教室を昼間は小学校として使っている村です。

土・日に行なわれる識字教師フランス語研修会も6月までで一時中止になります。これは雨季に入り農作業が優先される為です。フランス語を覚える機会の無かった人々にとって、非常に有効で、喜ばれています。出稼ぎに行く人が次第に



多くなりました。出稼ぎは一族の為でもあるので大変な責任を背負っています。現在は小学校4年生の教科書を使って学習しています。試験も時々行ない成果を確認しています。上の写真では、中年の男性が一生懸命にフランス語を学んでいます。

■ 女性自立事業

女性適正技術は村の女性たちで指導・運営ができるようになり、カラの手から離れても、順調に継続していくのが可能な状態になりました。赤ん坊や子供の衣服の縫製、結婚や出産時のお祝いにプレゼントする衣服や、カーテン、クッションカバー、シーツに刺繍して縫製する、古い衣服の染め直し等の染色、石鹼作りが手際よくできます。ただ近年殆どカリテの実の収穫が無いのでカリテの油を原料とする石鹼の製造ができないのがとても残念です。この石鹼は made in caraとして親しまれています。

他の重要な事業である2002年スタートの女性貸付事業は、2002年に2ヶ村から始まったのですが、現在は9ヶ村で実施されています。この事業の元金は全て村の女性たちで蓄え、1割の利息や貸付期間も女性たちが相談して納得の上で決められています。

下の表は、貸付事業の経過を表したものです。既にこの事業を10年も継続している村もあり、女性の自立に役立っていることは確かです。

女性委員会名と一人当り貸付額	回数	開始年月日	貸付元金	貸付人数
コニナ村女性委員会 (初回貸付金 2,500cfa) 貸付額 5,000cfa 貸付期間 5ヶ月	初回	2002/ 5/15	910,000	9人
	27回目	2012/12/12	130,000	27人
モバ村女性委員会 (初回貸付額 2,500cfa) 貸付額 10,000cfa 貸付期間 5ヶ月	初回	2002/ 6/15	800,000	13人
	27回目	2012/12/12	930,000	93人
カニカ村女性委員会 貸付額 20,000cfa 貸付期間 5ヶ月	初回	2005/12/18	940,000	20人
	17回目	2012/12/13	1,060,000	53人
ママブグ女性委員会 貸付額 15,000cfa 貸付期間 5ヶ月	初回	2005/ 7/17	880,000	14人
	17回目	2012/12/13	990,000	66人
ベレニコ女性委員 貸付額 10,000cfa 期間5ヶ月	初回	2005/12/18	832,500	28人
	16回目	2012/12/30	960,000	96人
ドンギネ女性委員会 貸付額 10,000cfa 貸付期間 5ヶ月	初回	2006/ 5/20	790,000	24人
	16回目	2012/12/12	880,000	88人
ンゴロブグ女性委員会 貸付額 10,000cfa 貸付期間 5ヶ月	初回	2009/10/20	310,000	20人
	7回目	2012/12/22	370,000	37人
コニナブグ女性委員会 貸付額 10,000cfa 貸付期間 5ヶ月	初回	2009/10/21	280,000	20人
	8回目	2012/12/30	330,000	33人
キバン女性委員会 貸付額 5,000cfa 貸付期間 5ヶ月	初回	2009/11/21	220,000	22人
	6回目	2012/12/12	275,000	55人
事業開始時は村により異なりますが、2002年開始のコニナ村とモバ村の事業参加者は夫々最多時には119人と140人でした。2ヶ村の現在の数は新規加入者です。開催年度は異なりますが、170人で開始した事業は、現時点では807人と増えています。				

この事業で得た収入は、家庭での主婦の立場を強くし自信を持つようになって、女性たちは、全ての事業に積極的に参加するようになりました。コニナ村でもモバ村でも初回から事業に参加していた人は、退会し小商い(個人事業主)を始めました。この事業で得た収益の一部を村の為に使う女性グループもありますが、蓄えが多くなるほど(金持になる)、懐から出さない女性も増え、事業の発展が女性の性格を変えているようで心配です。

■ 地域保健

以前から申請があり念願だった3ヶ村(コニナブグー村、キバン村、ママブグー村)

に夫々助産師が誕生し産院が建設されました。助産師の育成も終了しましたが、特にコニナブグー村の女性は非常に優秀ということで1年間の助産師研修を3ヶ月延長して看護師研修も受けました。この看護師の研修費用はコニナブグー村が負担しました。下の写真は、これから活躍する新規の助産師3人です。今後は彼女たちも加わってカラの保健事業が継続されていきます。いわゆる彼女たちは村のエリート女性です。



助産院建設に当って、ママブグー村では、土レンガ製造や労務費の問題で、カラが村へ出した要請と村の一部の有力者の主張とが合意できなく、長い間話し合いがおこなわれた結果、この春やっと合意が得られ建設にこぎつけました。他の2ヶ村からは数ヶ月遅れてしまいましたが、5月末には新しい助産院の建設が終了しました。

コニナブグー村とキバン村産院は5月前に既に開設し、夫々の活動と会計の報告が東京本部に届いています。カラは助産師の毎月の給料15,000cfa(日本円約3,000円)は、1年間だけ支給します。その後は村の自主管理委員会が支払います。助産院開設と同時に村に助産院自主管理委員会が設立され、今後は責任を持って維持管理に当たります。近郊の村に全く医療施設が無いキバ村の助産院には、多くの女性が来院して出産前検診や家族計画の説明を聞いています。4年前から始まった病気予防と保健知識を普及する女性グループ(通称KMT)の活動で、非常に多くの人々に家族計画や子供予防接種への関心が高まりました。これに合わせるように完成したこの3ヶ村の助産院は今後はその村

だけでなく、近郊の村へも多くの貢献をしたいと思います。乳幼児の死亡や出産時妊婦の死亡率、感染症も減少すると期待しています。KMTの活動は毎月2回、村で多くの知識を普及していますので、流産や未熟児が誕生すると、出産前検診に妊婦が来ないから、と女性たちは理解するようになりました。今まで無関心だった父親が子供を予防接種に連れて行くようにもなりました。

カラの念願だった、「村の人の力で病気を予防し健康を構築する」ということが少しずつ実現してきました。今年度は更に新しい保健知識を学び、KMTへ新しい知識を普及する為に、スタッフのアワは再びバマコの病院で研修を受講します。そして数年前からの要請事業である、クーラコミュン内のティネジェ クリバリー村出身の助産師1人を育成して村に助産院を建設することを計画しています。

■ スウバ村診療所のその後

外務省の日本NGO連携無償資金協力で2012年3月に完成したスウバ村の診療所の開設式は、既に申しあげましたように、3月22日にマリで発生したクデターの影響で当初の予定通りに運ばれず、実現出来ませんでした。

その後、行政との約束であった医師の派遣も薬品も届かなく(カラが準備した薬品や薬剤・器材は確保しています)、全く開設が出来ない状況が続いていました。その間スウバ村の女性たちの苦情がカラへ解決策を相談してきましたので、助産師と看護師は常に待機しているので、彼らだけで業務を行ない、時々村出身の医師がバマコから診療に来ることを条件に、村代表と女性たちが行政へ陳情することを提案し、それが許可されて、やっと2013年2月21日に開設の運びとなりました。

現状を見ることは出来ませんが、現在、スウバ村診療所は毎日診療活動を行っています。

■ 野菜栽培

人気のある野菜栽培もカラの手を離れて、村の女性たちだけで運営管理が可能になりました。31ヶ村のトゥグニコミュンには16ヶ村に野菜園が造成されています。本格的な野菜栽培の期間は基本的には11月頃から猛暑となる3月末頃までです。それ以外の月も各自が野菜を栽培し自家消費と販売が行なわれています。これは、過去とは格段の違いで非常に食生活が豊かになってきた証拠です。少しずつ栄養も改善されてきました。カラの事業が始まった2000年に野菜園が造成された村では、3,000g以上の新生児体重の赤ちゃんが誕生するようになりました。今までは2,000gを出た赤ちゃんは大きいと言われていました。反面、野菜も栽培されていなく遠く離れた村の妊婦が出産する赤ちゃんは、1,000gをヤット出た体重の時もあります。野菜栽培の成果として、このような事も目に付くようになって来ました。

タマネギ保存庫の利用も非常に成果が上がっています。第一にタマネギが腐敗しないことや、雨季の野菜のない時期に自家消費ができて、販売も可能ですから人気です。モバ村のタマネギ保存庫管理委員会は、女性たちから徴収した保存料金(年間約 500 円)を蓄えて、野菜種を購入し貸し付けています。返済はお金です。チャンスを無駄にしないで合理的に活用し、収入を得る村の女性たちの知恵には驚かされます。コニナ村でもタマネギ保存庫の建設を望んでいますし、野菜園の深井戸が故障したままになって、自力で修理できない村もあり、この村へも井戸の修理を行ないたいと思いますが、この 2 件の費用に必要な 200 万円の確保に頭を悩ましている事務局です。

■その他の活動

前述以外にも通常の活動が行われています。自然環境保護事業に於いて本年度も雨季にローカル樹種の植栽を行ないます。しかし、ローカル種の植栽の活着率が非常に低いです。活着率は次の表になっています。これは、2012 年 12 月の調査です。

村名	樹種	植栽本数	生存本数	死枯本数
ベレニコ村	ニエレ	674 本	493 本 (73.0%)	181 本
	ジジフイ	418 本	415 本 (99.2%)	3 本
	ガセカレース	329 本	245 本 (74.4%)	84 本
	ピナタ	109 本	53 本 (48.6%)	56 本
ウエニヤン村	ニエレ	569 本	387 本 (68.0%)	182 本
	ジジフイ	498 本	497 本 (99.7%)	1 本
	カリテ	106 本	59 本 (55.6%)	47 本
	ガセカレース	102 本	61 本 (59.8%)	41 本
	ピナタ	91 本	51 本 (56.0%)	40 本
サナマニ村	ニエレ	795 本	320 本 (40.2%)	475 本
	ジジフイ	467 本	464 本 (99.3%)	3 本
	ガセカレース	109 本	60 本 (55.0%)	49 本
	ピナタ	105 本	47 本 (44.7%)	58 本
	カリテ	64 本	38 本 (59.3%)	26 本
コンバ村	ニエレ	312 本	207 本 (66.3%)	105 本
	ジジフイ	309 本	303 本 (98.0%)	6 本
	ガセカレース	286 本	172 本 (60.1%)	114 本
	カリテ	195 本	117 本 (59.6%)	78 本
	ピナタ	113 本	60 本 (53.0%)	53 本

新規の改良カマドの製造が多くなりました。それは、10年以上も前に製造した改良カマドが長年の使用で寿命が来た為です。カラのアシスタントスタッフが村へ出向いて製造や修理を行いません。本来は使用する主婦や若者が製造するようにと、スタートした事業ですが、どうしてもアシスタントスタッフの仕事になってしまいます。

そして、森林パトロール隊の活動では、乾季の火災が全く無くなりました。

■ 平成 24 年度終了事業を表にしました。

日本国内事業概要			
からばす発行	2 回 (2012 年 4・11 月)	会員・支援者・東京都・公的機関・助成団体へ。	
年次報告書発行	2012 年 6 月		
カラ コンサート	2012 年 12 月 2 日	東京十字屋 H	
イベント参加	東京女子大学【園遊会】バザー	東京	2012・4 月
	東京白梅会	東京	2012・5 月
	土祭—ひじさい—2012	栃木県益子	2012・9 月
	グローバル フェスタ 2012	東京	2012・10 月
	盛岡ふるさと会	東京	2012・10 月
	紫波会	東京	2012・11 月
	武蔵野青空市	東京	2012・11 月
講演・その他	明星大学	東京	2012・5 月
	活動報告会	東京 日歯大	2012・7 月
	活動紹介と工芸品の展示	栃木県宇都宮	2012・7 月
	名古屋大学 農学部	名古屋市	2012・9 月
	ミニ講演会 (グローバル フェスタ)	東京日比谷	2012・10 月
	青年ワークショップ	M I A	2012・11 月
	第 2 回毎日地球未来賞表彰式・講演	大阪	2013・1 月
仙台 I ソンダクラブ	宮城	2013・3 月	
マリ現地事業概要			
JICA 事業 2011 年 10 月開始 3 年間継続事業。 「サヘル地域における基礎教育向上事業」	識字教師育成事業 ① C-A フランス語研修会 ② C-B バンバラ語研修会 ③ 一般村民対象識字学習の普及	トゥグニコミュン トゥグニドゥバ、ケラ コミュンでの事業 スウバ村	事業継続中
W・F・F 事業	タファラン村浅井戸 2 基改修工事		事業終了
アフリカ公益基金	人材育成(助産師 3 人)、3 産院設備費一部		事業終了
他 個人寄付金事業	3 産院の建設、井戸改修事業、識字教室修理		事業終了

■ 平成 24 年度収支計算書、平成 25 年度事業予算書 (円)

収入の部	平成 24 年度予算	平成 24 年度決算	平成 25 年度予算
会費 収入	900,000	850,000	850,000
寄付金 収入	5,000,000	5,182,529	4,000,000
事業助成金収入	37,000,000	15,979,664	48,000,000
補助金・その他の収入	1,000,000	2,076,800	2,280,000
固定資産売却収入			
雑収入(その他の収入)			
基本財産運用益		800	
受け取り利息		553	
定期預金取崩し収入			
短期借入金収入		1,689,988	
前期繰越収支差額	3,443,182	3,443,182	4,035,082
収入の部合計	47,343,182	29,223,516	59,165,082
支出の部			
海外事業費			
1)水資源確保事業費	1,800,000	1,780,560	0
2)保健衛生病気予防	2,200,000	484,800	2,280,000
3)女性自立支援事業	0	27,000	0
4)教育の普及/学校建設	18,458,040	992,120	42,349,543
5)野菜園	0	0	1,300,000
6)環境保全事業費	0	0	40,000
7)監査法人監査費	350,042	300,000	4)に含む
8)プロジェクト雇用費	2,800,000	2,605,639	4)に含む
9)プロジェクト運営管理費	8,500,000	5,357,179	600,000
9)マリ事務所経費	1,130,400	1,960,323	800,000
10)固定資産購入支出		0	0
11)短期借入金返済支出		0	0
12)為替差損		102,881	
マリ側合計支出 ①	35,278,482	13,617,502	47,369,543
国内事業費			
1)広報啓発費(事業費)	700,000	751,673	200,000
2)管理費	9,500,000	9,730,671	6,500,000
3)短期借入金返済支出		1,035,588	
4)法人税及び住民税	0	0	
5)諸会費		53,000	
日本側合計支出 ②	10,200,000	11,570,932	5,700,000
支出の部合計①+②	45,478,482	25,188,434	54,069,543
次期繰越収支差額	1,864,700	4,035,082	5,095,539
支出の部合計	47,343,182	29,223,516	59,165,082

■ 平成 25 年度事業計画

A 海外事業	マリ共和国
1：保健衛生啓蒙・病気予防事業	
①助産師(1人)の研修	ティネジェ クリバリー村の女性1人。バマコ診療所で助産師育成研修。終了後②の産院での業務。
②1産院建設	ティネジェ クリバリー村に建設、自主管理委員会組織指導(運営と管理の指導)。
③保健コーディネーター再研修	2ヶ月間バマコ市の診療所で研修受講。
④ケネヤムソーの会(KMT)活動	トゥグニコミュン内での村に於ける啓発活動の継続。
2：女性の自立支援	各の新旧女性センターで貸付事業の運営・管理指導。適正技術の監督と指導の継続。
3：野菜園管理指導 モバ村 玉葱保存庫監督。 コニナ村穀物庫管理指導	野菜園での栽培指導監督を継続。 コニナ村ヘタマネギ保存庫1棟の建設。
4：教育の普及	
識字教師育成研修会	3コミュン(クーラ、ダウンバ、トゥグニ コミュン)で250人の識字教師の育成(3年間JICA新規事業)継続。
識字学習の継続 学校建設(3校)	村民を対象とした識字学習の継続。 シンザニ中学校、ニヤマコロブグ及びコニナ小学校と識字教室の建設、旧識字教室の修理。
5：環境保全事業	
苗木の生産と植栽 改良カマド製造と普及 森林パトロール隊の活動	現在の事業を継続。
6：その他の継続事業	産院・診療所の運営指導、コニナ市場の観察。
B 国内事業	
広報啓発	・会員の勧誘。 ・カラ定例コンサート「かけはし2013」の開催。 ・機関紙「からばす発行」2回・年次報告書発行。 ・活動報告会・講演会開催・イベントへの参加。 ・その他。

平成24年度事業に於いて、2小学校と1中学校の建設を予定していましたが、マリ共和国の政情不安定につき、外務省N連への新規事業の申請を見合わせておりましたので、実現が不可能でした。改めて平成25年度事業として立案しました。

・・文末ですが、皆さまの変わらぬご理解と、ご支援に感謝いたします・・

平成25年6月20日 作成

貸借対照表
平成25年 3月31日現在

資産の部		(単位：円)
勘定科目名	総計	
(流動資産)		
現金	116,468	
普通預金	3,634,408	
郵便貯金	202,906	
前渡金	81,300	
流動資産合計 4,035,082		
(固定資産)		
債券	0	
定期預金	4,000,000	
車両運搬具	6,406,251	
器具備品	682,090	
減価償却累計額	-6,279,139	
電話加入権	76,440	
事務所保証金	154,000	
固定資産合計	5,039,642	
資産の部合計	9,074,724	

負債の部		(単位：円)
勘定科目名	総計	
短期借入金	654,400	
預り金		
未払法人税等		
負債の部合計	654,400	

正味財産の部		(単位：円)
勘定科目名	総計	
指定正味財産合計 0		
一般正味財産合計 8,420,324		
正味財産の部合計 8,420,324		
負債・正味財産の部 9,074,724		

上記第1/ 期の会計については、正確、且つ適正に処理されていることを確認いたしました。

平成 25年 6 月 2 日

監事

監事

滝口洋子

神小月子

